

次号予告

特集 企業事例

- OR技術とその適用システム 築山 誠, 森 一之, 安部恵介 (三菱電機)
照明空間デザインと官能評価のモデル化 米田さつき, 吉田 稔 (松下電工)
原子燃料の炉心内配置の最適化—GA, SAの適用事例— 橋本 寛 (日本総合研究所)
山本章夫 (原子燃料工業)
配送経路最適化の適用: 銀行における配送を例として 岡野裕之 (日本アイ・ピー・エム)
経験知識を最適化問題へ利用する際の諸問題について—システムの構築体験から考える—
..... 岩谷敏治, 小西正躬 (神戸製鋼所)
石油精製プラントにおけるインテリジェント制御の適用事例について 谷 哲次 (出光興産)

編集後記

●今回の特集は「パートナリング」です。5つの事例をご紹介しましたが、全て大変に興味深い内容であり、かつ意義深い特集であると思われました。電気事業では、電源の多様化、業務処理の機械化や自動化、合理的な資金調達や海外からの資材調達など、経営全般にわたり効率化・生産性の向上につとめています。地球環境問題への対応といった公益的課題に対する対応と経営効率化との両立を目指していくには、今後何らかの戦略的な提携を図っていくことが必要になるかもしれません。

●今年の夏は暑かったですが、電力需要に影響を及ぼす最大の要因は気温だと言われています。その理由は、電力需要のピーク需要の約4割は冷房需要によるものであるからです。気温の僅かな変化が、冷房需要に大きな影響を与えることとなります。電気事業連合会に

よりますと、各電力会社では電源設備の増強が順調に進み、総供給力は1億9545万kW、供給予備率としても、夏場の期間を通して10%程度を確保しておりますが、想定外の気温上昇や、設備の故障などが起こり得る可能性があり、決して余裕があるといえる状況ではありません。このような不確定な状況下での最適化を扱う確率計画法を適用した需給計画モデルなど、電力の安定供給に向けてオペレーションズ・リサーチが応用される分野は少なくないと思われま

す。●また、このような高品質な電力の安定供給にとどまらず、地球温暖化などの環境問題への対策も、不確定状況下の決定問題だと捉えることができます。これらの問題は、これからも我々オペレーションズ・リサーチを取り扱う者に残された課題になると思います。オペレーションズ・リサーチ学会員として、何らかの役割を果たせたらと思っています。(椎名 孝之)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 田口 東(中央大学)

委員 北澤英理子(東京ガス㈱), 栗田 治(慶応義塾大学), 猿渡康文(筑波大学), 椎名孝之(財団法人電力中央研究所), 繁野麻衣子(筑波大学), 清水康司(青山学院大学), 田村明久(京都大学), 中川慶一郎(㈱NTTデータ), 原 裕淳(㈱東芝), 平山克己(住友金属システム開発㈱), 松村良平(東京工業大学), 宮崎知明(富士通㈱), 山下英明(東北大学), 吉野秀明(日本電信電話㈱)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成11年10月号 第44巻 第10号 通巻466号

代表者 水野 幸男

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

編集人 田口 東

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ